

# 起業家支援財団 事務局通信 NO.11

発行日 平成 23 年 11 月 18 日 (金)  
発行 公益財団法人起業家支援財団  
事務局 〒231-0003 横浜市中区北仲通 3 - 33  
TEL 045-263-9222 FAX 045-263-9220  
www.shienzaidan.or.jp info@shienzaidan.or.jp  
発行責任者 小林孝雄 編集 羽田清



9月23日(金)、24日(土)の二日間にわたり第3回社会起業プランコンテスト最終審査会が関内フューチャーセンターで開催されました。今回は152名の応募を頂き、うち29名が最終審査に進み、最優秀賞2名と優秀賞6名が選出されました。写真は入賞者を囲んでの記念写真撮影風景です。

東日本大震災から8カ月が経ちました。  
世界中の暖かいご支援の下、「がんばろう！日本」を合言葉に、復旧、復興に向け、少しずつ進み始めたように思います。

3月11日以降、社会的企業への関心が高まり、当財団の展開するiSB公共未来塾の受講者も増加しております。  
何かが変わりつつあるように思います。

今回は、平成23年度第3四半期の報告をいたします。  
引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。

(副理事長 小林 孝雄)

## ●学生起業家支援事業（奨学金給付事業）

第4期奨学生32名に対し、奨学金の支払いを行うとともに、起業を目指す学生に対する助言等を行う「学生起業塾」を2回開催しました。

特に、8月23日、24日の両日、葉山町にて合宿を行い、KSPの栗田氏によるそれぞれの塾生の事業プランのブラッシュアップと起業経営者（葉山牛を飼育する三留牧場の三留氏）の講演により、アントレプレナーシップの涵養に勤めました。

## ●社会的企業育成支援事業コンソーシアム

昨年4月から実施している、内閣府からの受託事業、社会的企業育成支援コンソーシアムも佳境に入り、7月23日から第5期iSB公共未来塾(セミナー)を開講し、9月3日に修了しました。

また、県内各地域等で社会的課題に対する関心が深まる中で、地域サテライトを開設し、相模原サテライト、川崎サテライト、藤沢サテライト、千葉サテライト、滋賀サテライトを順次開設し、iSB公共未来塾の講座を展開しました。

一方、セミナーと並行して、第3回社会企業プランコンテストを9月23日、24日の両日開催し、厳正な審査の結果29名の起業支援対象者を選定しました。

なお、第1回コンテストの最優秀賞「養護施設卒業生の就職支援事業」を企図した永岡氏は(株)フェアスタートを起業し、NHK等マスコミで取り上げられております。

**●経営道場2011**

「アントレプレナーシップで経営を革新する」をテーマに、企業の幹部候補、創業経営者の後継者などを対象に展開する青年起業家支援事業「経営道場」も第4回を迎えました。過去3回と同様、トータルコーディネーターに浜銀総合研究所の大島研究主幹を委嘱し、10月から来年4月まで開講することとなり、受講者9名でスタートしました。

**●横浜市立大学への寄附講座**

アントレプレナー教育の一環として、第2回目となる横浜市立大学への寄附講座「起業経営論」は大学の平成23年度上期授業として4月から7月まで実施。神奈川県内の起業家等7名の経営者に講演いただきました。今年度は約80名の学生が受講、ソーシャルビジネスに対する関心の高まりもあって、11月にはiSB公共未来塾のエンハンスドプログラムとして追加の講義を行いました。

**●関内イノベーションイニシアティブ(株)から受託した起業家支援業務（関内フューチャーセンター）の運営**

関内フューチャーセンターに入居する起業家、企業家等に対する支援業務、施設の管理業務などを引き続き円滑に遂行しました。

また、関内地域で持続的に仕事生まれる仕組みづくりなど、「視覚会議」の手法を活用して、地域の多様なステークホルダーの方々とのミーティングを実施しました。

**●ヨコハマトリエンナーレ2011の連携プログラムへの参加**

トリエンナーレと会期を同じくし、一体となって催事を行う「特別連携プログラム」の一つ、BankART主催の「新・港村（しんみなとむら）」プログラムに参加しました。新港ピアの会場にスペースを借り、社会起業家育成プロジェクトを広報するとともに、他の出店者と「アーティストとの連携による街づくり」のセッションを開催しました。

**事務局から**

光陰矢のごとし。間もなく師走に入りますが、財団としてはiSB公共未来塾の最終第6期（10月23日開講）の修了式（12月3日）、社会起業プランコンテストの最終第4回の最終審査会（12月23日、24日）、そして第5期の奨学生選考会（12月25日、26日）と大きなイベントを控え、忙しい中にも充実感を味わいながら業務に精励しているところです。

向寒のおり、皆様におかれましてはより一層ご自愛のほどお祈りしております。